

# 宮崎市政モニター

令和3年度第2回アンケート集計結果

(令和3年10月実施分)

## 第2回アンケート

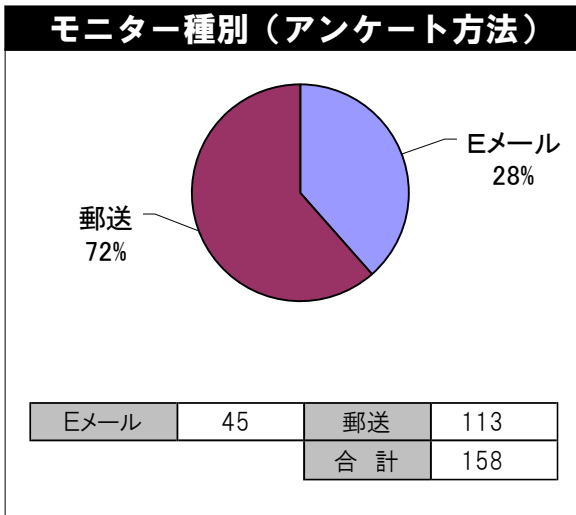
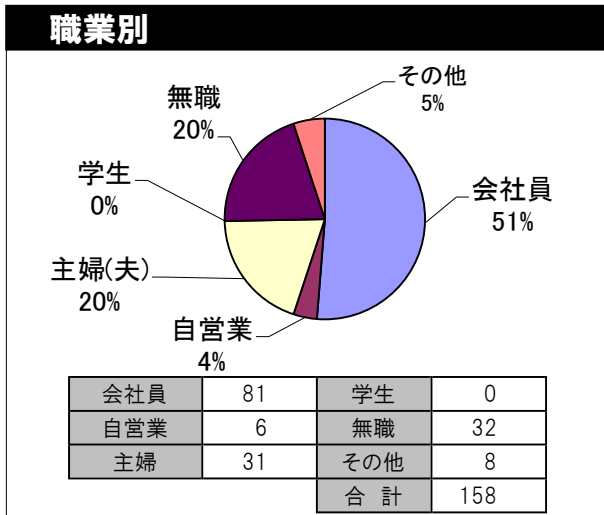
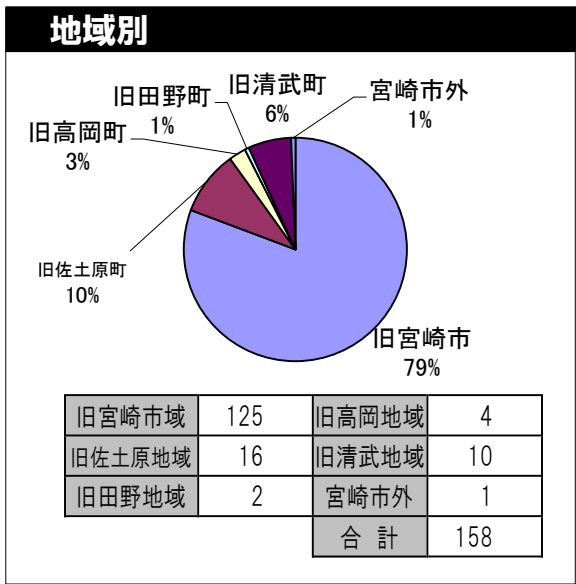
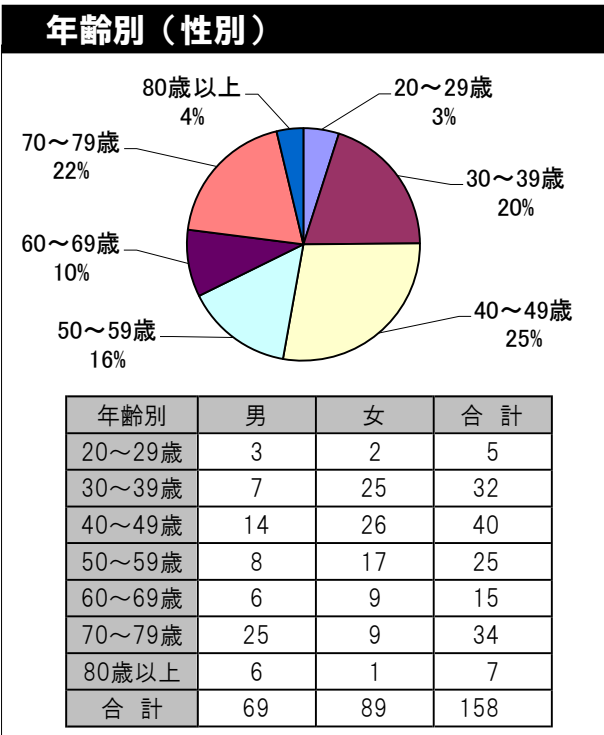
「ひきこもり状態にある方への支援等」に関するアンケート調査 …… 3

宮崎市秘書課広報広聴室

# 令和3年度 第2回宮崎市政モニターアンケート調査概要

(1)調査担当課	福祉部 社会福祉第一課
(2)活動内容	「ひきこもり状態にある方への支援等」に関するアンケート調査
(3)調査期間	令和3年9月24日～令和3年10月8日 ※終了後も一定期間回収
(4)送付数	184人(郵送モニター119人、e-モニター65人)
(5)回答数	158人(郵送モニター113人、e-モニター45人)      回答率:86%

## モニター属性（回答者）



## ひきこもり状態にある方への支援等に関する意識調査

## ◆調査の目的

「8050問題(80歳代の親が、50歳代の子どもの生活を支えるという問題)」が社会的問題となり、ひきこもりなど社会的に孤立している方への支援が必要とされる中、コロナ禍において、さらにひきこもり状態にある方が増加することも懸念されている。

そのような中、ひきこもり状態にある方への市民の意識や支援の必要性について調査を行い、今後の施策立案の参考とするものである。

## ◆調査の概要

- |           |                                    |
|-----------|------------------------------------|
| (1) 調査期間  | 令和3年9月24日 ~ 令和3年10月8日 (終了後も一定期間回収) |
| (2) モニター数 | 184人                               |
| (3) 回答者数  | 158人(86%) (郵送モニター 113人、e-モニター 45人) |
| (4) 担当課   | 福祉部 社会福祉第一課                        |

## ◆調査結果考察

## 【問1】『ひきこもりの定義を知っていますか。』

「はい」と答えた人が、66.7%、「いいえ」と答えた人が33.3%であった。

## 【問2】『ひきこもり状態にある方がいるという話を知人等から聞いたことがありますか。』

「ある」と答えた人が、53.5%、「ない」と答えた人が46.5%であった。半数に上る方が何らかの形でひきこもり状態にある方について聞いた経験があることがわかった。

## 【問3】『ひきこもり状態にあることについて、支援窓口の案内など、何かアドバイスをしたことがありますか』

(問2で、「ある」と回答した方(84名)への設問)

「ある」と回答した人は23.8%、「ない」と回答した人は76.2%であった。

## 【問4】『ひきこもり状態にあることについて、アドバイスをしたことがある方は、どのようなアドバイスをしましたか(複数回答可)』(問3で、「ある」と回答した方(20名)への設問)

「病院を受診するよう案内した」との回答が最も多く27%、次いで、「市役所に相談するよう案内した」が21.6%、「県ひきこもり地域支援センターを案内した」が18.9%となった。ひきこもり状態にあることについて、何らかの疾患がある可能性を感じたケースや、身近な窓口、「ひきこもり」と銘打っている機関へ案内する傾向が見て取れた。

## 【問5】『ひきこもり状態にあることについて、アドバイスをしなかった理由を教えてください(複数回答可)』(設問3で「ない」と回答した方(64名)への設問)

「直接の知人ではなかった」が40.2%、次いで、「何をアドバイスしたらよいかわからなかったから」が26.8%、「本人が支援を求めていなかったから」が18.3%、「その他」が14.6%となった。「その他」の意見では、「安易な助言は混乱を招く」「容易なアドバイスはできない」「家族がひきこもり状態にある人は恥であると思っているため、何もできない」「詳しい情報を聞き出すことがはばかれる」といった意見が見られるなど、ひきこもりに関する話題は、プライバシー性の高いものと考えられていること、また、支援や問題の解決につなげるための難易度が高いという認識があることがうかがえた。

## 【問6】『仮に身近にひきこもり状態にある方がいて、相談先につなげる場合、どこに相談しますか』

「県ひきこもり地域支援センター」が24.4%、次いで「市「こころの健康相談」」が23.1%、「病院」が17.9%となった。

ひきこもりに特化した相談機関であるひきこもり地域支援センターのほか、ひきこもり状態にある方について、何らかの精神疾患があるとの認識が高いように感じた。

## 【問7】『ひきこもり状態にある方への支援は必要と思いますか』

「必要と思う」が88.5%、「必要と思わない」が4.5%、「どちらでもない」が7.1%となった。

## 【問8】『ひきこもり状態にある方へは、どのような支援が必要と考えますか(複数回答可)』

(問7で『必要と思う』と回答した方(138名)への設問)

「相談支援」が23.2%、「家族支援」が20.5%、「居場所づくり」が16.7%となっている。ひきこもり状態にある方との接触が難しいという理解から、「まずは接触しやすい家族から」と、家族支援の必要性を感じている方が多く見受けられた。

## 【問9】『問7で『必要と思わない』または『どちらでもない』と答えた方への質問です。なぜ、そのように考えますか(複数回答可)』(18名への設問)

「家庭及び個人の問題だから」との回答が半数を占めた。20%が「本人が好きでひきこもり状態にあると思うから」、16.7%が「どのような支援が必要かわからないから」と回答した。

**【問10】「市がひきこもり支援を進めていくにあたり、何が必要と考えますか(複数回答可)」**

「家族への支援」15.6%で最も多い回答となった。次に「ひきこもり状態にある方の実態調査」13.6%、「ひきこもりの相談や施策を進める専門部署の設置」12.5%と続いた。

**【問11】「潜在化するひきこもり状態にある方に接触し、支援につなげていくためにはどのような取組が必要と思いますか。意見や提案等があればお書きください」**

■ 広報や周知活動の強化、相談窓口の整備

ひきこもり状態にある方・家族が相談をしたいときに、どこに行けばよいかわかるように窓口の周知等を行っていくこと、手法としてもひきこもり状態にある方、市民に届くようLINEやインターネットなど様々な手段で行う必要がある等の意見が最も多く見受けられた。

■ 家族支援について

ひきこもり状態にある方と接触することは難しいため、まずは家族支援を行い、家族との関係性をつくって、本人につながっていけるようにしてはどうか、との意見があった。

■ 情報収集

自治会を通じてのアンケート、実態把握調査のほか、様々な団体が連携して活動していくことである程度の情報を得ることが可能ではないか、との意見があった。

**【問12】「ひきこもりに関する勉強会や講演会があれば参加してみたいと思いますか」**

「参加してみたい」が38.6%、「参加したくない」との回答が15%、「どちらでもない」が46.4%だった。

◆ 調査結果まとめ

ひきこもり状態にある方の人数は、確実なものとはわからないところがあるが、今回の回答者の半数が何らかの形で、ひきこもり状態にある方がいるということを聞いたことがあり、9割近くの方がひきこもり支援が必要であると回答している。ひきこもり状態にある方を知ったとしても、アドバイス等を行うことは「プライバシーの問題である」「容易なアドバイスはできない」と、助言等も行いづらい状況が垣間見えたことなどから、改めて、ひきこもり状態にある方等への支援体制の構築や施策の必要性を認識した。

仮にひきこもりに関する相談をする場合の相談機関を選ぶ設問では、「役割等がよくわからない」といった意見も見られたことから、窓口の周知に力を入れていく必要がある。

宮崎市においては、令和3年11月から、ひきこもりの相談窓口を「自立相談支援センター これから」とした。相談先として選ぶ方はわずか3.8%にとどまっている。ひきこもり状態にある方、その家族が、相談を希望した、あるいは相談先を探した際に、迷わずたどり着けるよう、窓口の周知及び効果的な広報に注力していきたいと考える。

ひきこもり支援施策等への自由意見は、気づかなかった新たな視点であったり、改めて重要性を認識をしたことであったりと大変参考となった。今後の施策の検討に反映させていきたいと考える。

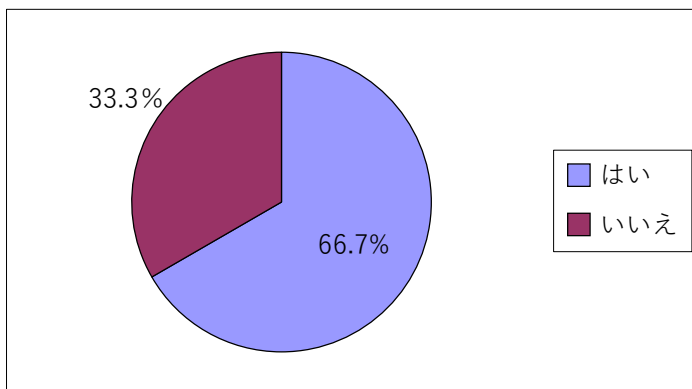
また、現在、ひきこもり状態にある方や家族へ支援ニーズ等を把握するアンケート調査を準備している。今回のアンケートでいただいた意見と合わせて、より実態に即した施策等を検討していきたい。

◎ 調査結果

◎ 集計結果の数値(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の構成比の合計が100%にならない場合がある。

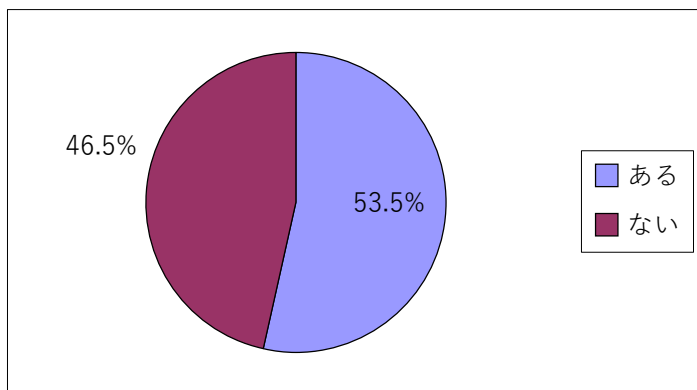
1. 「ひきこもりに関する相談」についておうかがいします。

問1 「ひきこもり」の定義を知っていますか。



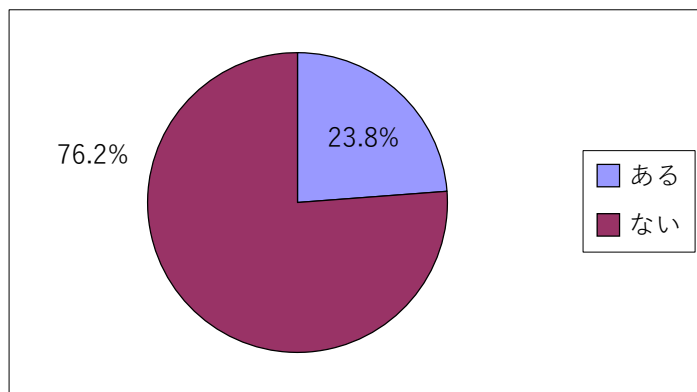
1	はい	104件	66.7%
2	いいえ	52件	33.3%
		156	

問2 ひきこもり状態にある方がいるという話を知人等から聞いたことがありますか。



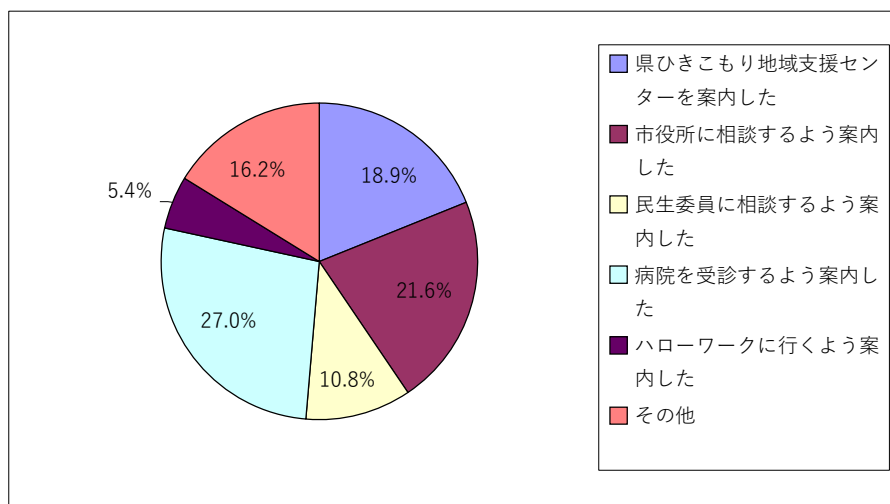
1	ある	84件	53.5 %
2	ない	73件	46.5 %
		157	

問3 問2で「ある」と答えた方への質問です。ひきこもり状態にあうことについて、支援窓口の案内など、何かアドバイスをしたことがありますか。



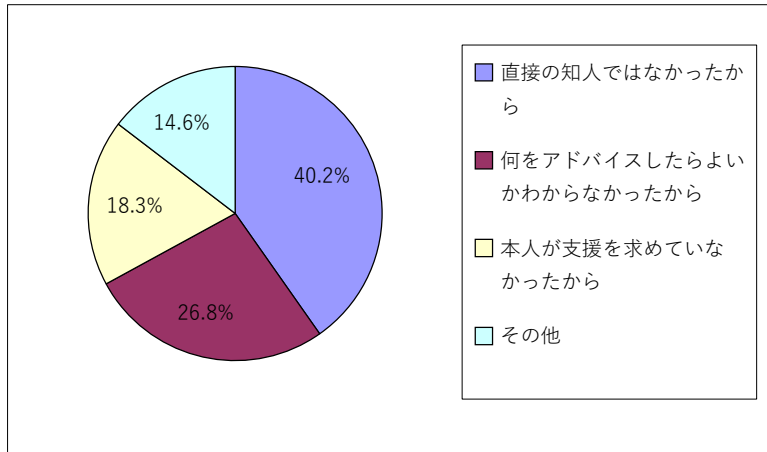
1	ある	20件	23.8 %
2	ない	64件	76.2 %
		84	

問4 問3で『ある』と答えた方への質問です。どのようなアドバイスをしましたか(複数回答可)



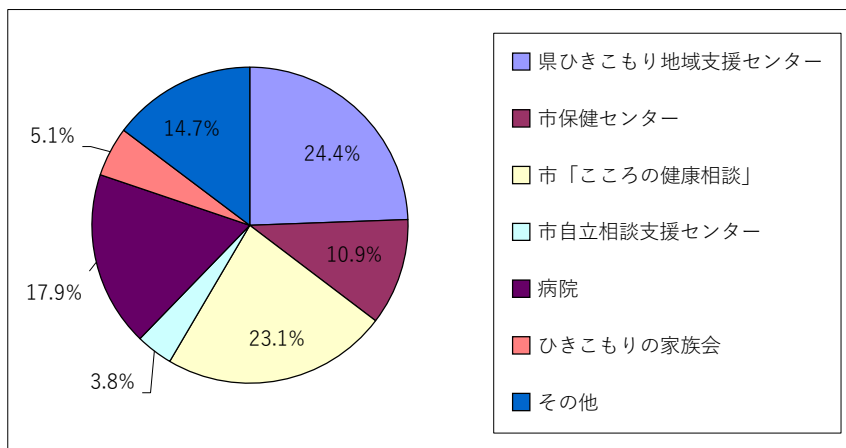
1	県ひきこもり地域支援センターを案内した	7件	18.9 %
2	市役所に相談するよう案内した	8件	21.6 %
3	民生委員に相談するよう案内した	4件	10.8 %
4	病院を受診するよう案内した	10件	27.0 %
5	ハローワークに行くよう案内した	2件	5.4 %
6	その他	6件	16.2 %
		37	

問5 問3で『ない』と答えた方への質問です。アドバイス等をしなかった理由を教えてください(複数回答可)。



1	直接の知人ではなかったから	33件	40.2 %
2	何をアドバイスしたらよいかわからなかったから	22件	26.8 %
3	本人が支援を求めていなかったから	15件	18.3 %
4	その他	12件	14.6 %
		82	

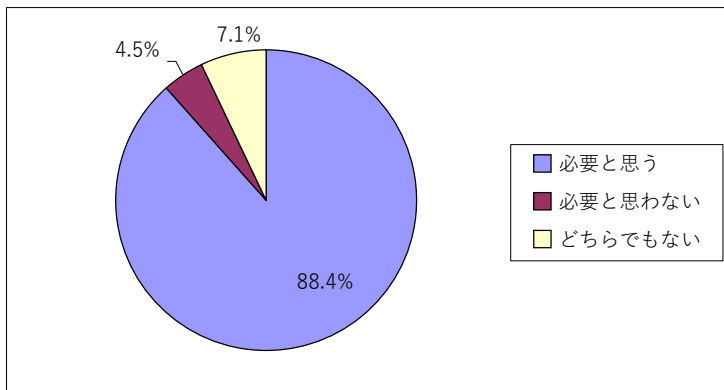
問6 仮にあなたの身近にひきこもり状態にある方がいて、相談先につなげる場合、どこに相談しますか。1つだけ選んでください。



1	県ひきこもり地域支援センター	38件	24.4 %
2	市保健センター	17件	10.9 %
3	市「こころの健康相談」	36件	23.1 %
4	市自立相談支援センター	6件	3.8 %
5	病院	28件	17.9 %
6	ひきこもりの家族会	8件	5.1 %
7	その他	23件	14.7 %
		156	

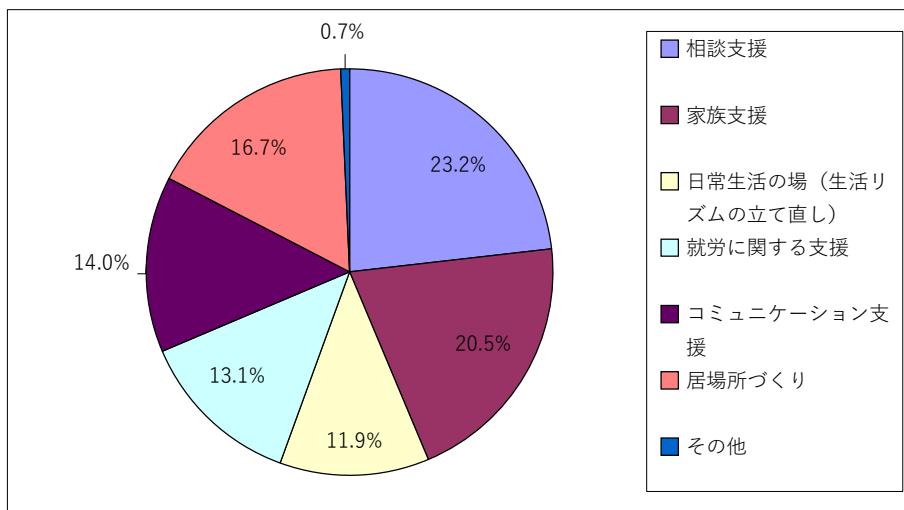
2.「ひきこもり支援」についておうかがいします。

問7 ひきこもり状態にある方への支援は必要と思いますか。



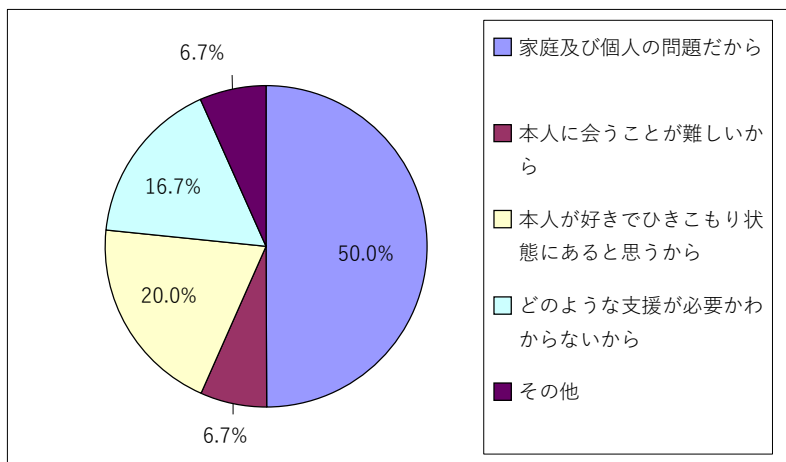
1	必要と思う	138件	88.4 %
2	必要と思わない	7件	4.5 %
3	どちらでもない	11件	7.1 %
		156	

問8 問7で『必要と思う』と答えた方への質問です。ひきこもり状態にある方へは、どのような支援が必要と考えますか(複数回答可)。



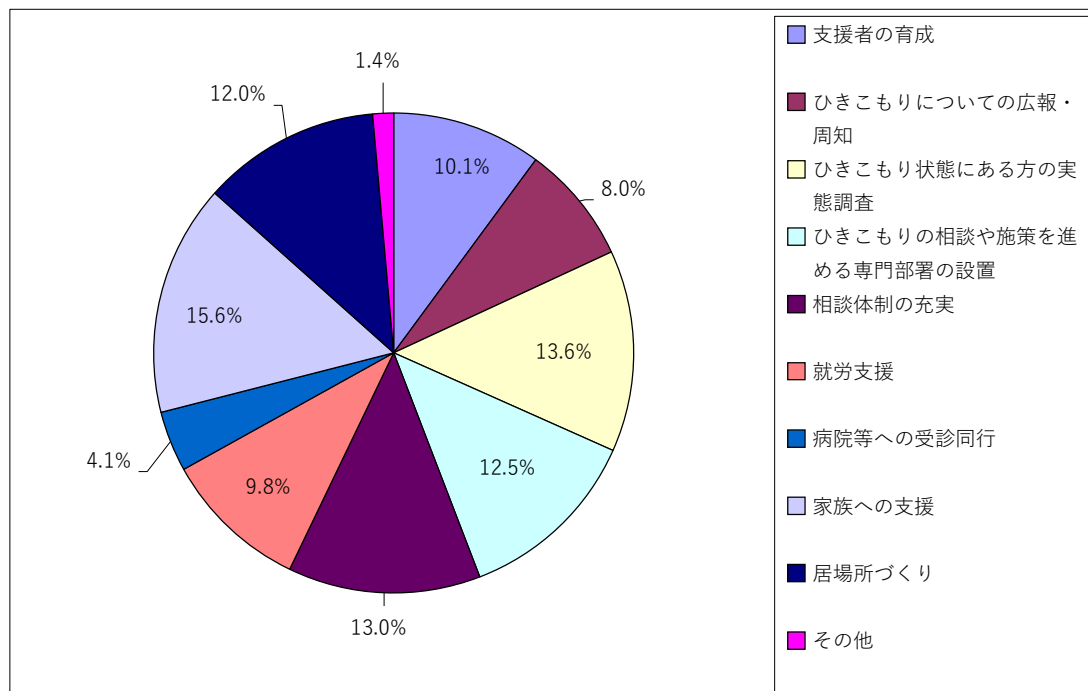
1	相談支援	103件	23.2 %
2	家族支援	91件	20.5 %
3	日常生活の場（生活リズムの立て直し）	53件	11.9 %
4	就労に関する支援	58件	13.1 %
5	コミュニケーション支援	62件	14.0 %
6	居場所づくり	74件	16.7 %
7	その他	3件	0.7 %
		444	

問9 問7で『必要と思わない』または『どちらでもない』と答えた方への質問です。なぜ、そのように考えますか(複数回答可)。



1	家庭及び個人の問題だから	15件	50.0 %
2	本人に会うことが難しいから	2件	6.7 %
3	本人が好きでひきこもり状態にあると思うから	6件	20.0 %
4	どのような支援が必要かわからないから	5件	16.7 %
5	その他	2件	6.7 %
		30	

問10 市がひきこもり支援を進めていくにあたり、何が必要と考えますか(複数回答可)。



1	支援者の育成	65件	10.1 %
2	ひきこもりについての広報・周知	51件	8.0 %
3	ひきこもり状態にある方の実態調査	87件	13.6 %
4	ひきこもりの相談や施策を進める専門部署の設置	80件	12.5 %
5	相談体制の充実	83件	13.0 %
6	就労支援	63件	9.8 %
7	病院等への受診同行	26件	4.1 %
8	家族への支援	100件	15.6 %
9	居場所づくり	77件	12.0 %
10	その他	9件	1.4 %
		641	

問11 ひきこもり状態にある方の情報は、表面化しにくく、支援につなげることが難しいと言われています。このように潜在化するひきこもり状態にある方に接触し、支援につなげていくためにはどのような取組が必要だと思いますか。意見や提案等があればお書きください。

◆広報や周知活動の強化、相談窓口の整備について

- ・ホームページ(HP)やLINEなどでひきこもりの本人や家族が匿名で相談できる環境や、相談先を書いたチラシを市民に配布する。
- ・ひきこもりがどこで起こっているかわからないが、自治回覧を有効に利用した広報活動も大事だと思う。
- ・困りごと、悩み事相談を受け付ける電話を開設する(24時間体制)。「気軽にお電話ください」と、TVや新聞、市報で呼びかけ、電話番号も覚えやすい番号にする。ゆるきゃらの「電話してね」の呼びかけはどうだろう。
- ・問6の「仮に身近にひきこもりの人がいたらどこで相談するか」という問で、相談先が全く思い浮かばなかった。市のHP、広報誌、回覧板などで相談窓口の情報を常時公開するといいと思う。
- ・まずは、相談窓口の広報・周知を行うことが大切



- ・相談機関をTVやラジオ、新聞、ポスター、SNS、などで紹介する。悩んでいる人の目に留まるよう、多くの機会、場所をとらえ紹介する。
- ・昔、悩みの相談室の番組(ラジオ)があったが、最近聞くことが少ない。みんなで考える番組が欲しい(市がスポンサーになっても良いのでは)。
- ・まずは、表面化させることが大切だと思う。ひきこもりについて理解することが第一歩だと思う。勉強会や講演会、パンフレット、SNSなどで積極的に周知してもらったら助かる。
- ・インターネットで検索して相談先などの情報を得られやすいようにしてほしい。

#### ◆家族支援について

- ・本人はもちろんだが、家族の方も誰にも相談できず悩んでいる方が多いと思う。当事者の家族にも相談や支援をしやすい環境づくりが必要。
- ・ひきこもるきっかけは、個々人によって違うと思うし、支援を必要としているかどうか人も人によると思うので、「ひきこもっている本人」への支援はよく考える必要があると思う。ただ、一緒に生活をしている家族は、支援や相談先、心のより所を必要としていると思う。「ひきこもり本人」よりは「ひきこもりを抱える家族」への支援を考えていくべきだと思う。
- ・家族への取組を優先して考えるべきではないか。家族が少しでも明るくなれば、ひきこもり本人への向き合い方に変化が生まれ、それは本人にも影響を与えらると思う。
- ・外に出ていない本人よりも、まずは家族からつながっていく方法が必要なのかなと思う。

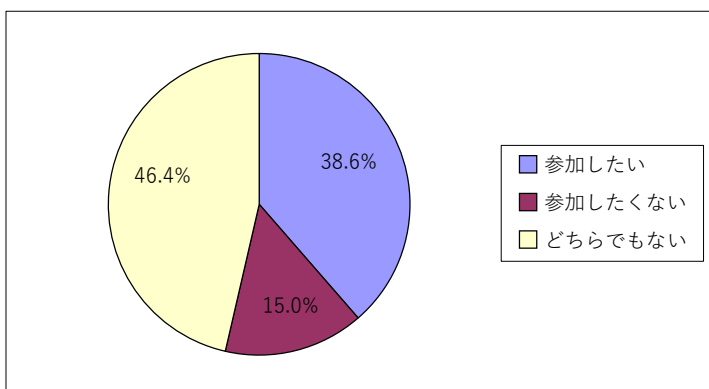
#### ◆情報収集

- ・地域のひきこもり状態にある人のリストの作成や、警察による聞き取りを行う。
- ・自治会を通じてアンケートする。そして、どういう実態になるのかなどをまず調査する。
- ・インターネット上で、家族や本人からのメッセージをテンプレートに記入してもらって形で情報を集約する。
- ・まずは実態把握が必要。

#### ◆その他

- ・本人が興味があることに無料で参加できるような居場所づくり
- ・話ができる場所をつくる
- ・ひきこもりの方のウェブによるコミュニティサイトや自宅でできる仕事等、まずは社会参加の足掛かりをつくる。
- ・「ひきこもり」という表現が悪い。「障(害)者」と同じように、表現から変えた方が良いと思う。
- ・支所、地域事務所が民生委員や児童委員、児童相談所、福祉事務所、保健所等あらゆる関係機関と一体となって縦割り行政でなく、誰でも情報を共有し、支援できる取組が必要。
- ・隣近所で話を聞いたときに、地区区長、民生委員に相談し対応を検討するなど、地区での相談体制を作って、ひきこもり家族との接触理解を求める。その後、ひきこもり当事者との接触になると思う、最終的には関係機関に引継ぎ支援することが大事である。

問12 ひきこもりに関する勉強会や講演会があれば参加してみたいと思いますか。



1	参加したい	59件	38.6 %
2	参加したくない	23件	15.0 %
3	どちらでもない	71件	46.4 %
		153	

問13 市は現在、ひきこもり支援体制づくりや施策の検討について進めています。ひきこもり支援や、施策等について意見や提案等があればご自由にお書きください。

- ・身内にひきこもりがいるが、家族の言うことはほとんど聞かない。プロのカウンセリングや専門家がひきこもり本人や家族と気軽に話ができるような体制があると助かる。
- ・家族もひきこもりの人への対応がわからなかったりする場合もあると思うので、勉強会や意見交換会など専門的な人を交えて開催できたらいいと思う。

- ・ひきこもりから復活した事例のイメージがわからないので、明るい事例などを伝えると良いのではないかと。前向きな気持ちでスタートできる支援だといいなと思う。
- ・ひきこもり経験者などの意見がないままに施策が策定されていくのには疑問が残る。
- ・ひきこもりは、本人が望んでいる場合かつ、家族もそれで良しとしている場合もあるので、一概に周りが干渉したり解消しようとする介入すべきではないと思う。本当に救いを求めているのであれば、本人なり家族が調べるので、そうした際に情報を見つけやすくしておき、いざ相談がきた際に親身に相談に乗る体制を整えておけばよいと思う。
- ・ひきこもり状態にならないための施策も講じてほしい。「ひきこもり支援」も必要だと思うが、社会的に孤立してしまう人を増やさせない支援も同時に進めていかなくてはならないと思う。
- ・SNSやNetflixなど、家にいても楽しめるツールが溢れており、また、今後も加速して増えてくる。家でできる仕事、その他ツールで支援していくしかない。
- ・ひきこもり相談といえば、〇〇〇というような、わかりやすいネーミングの一時対応窓口を作る。そこが相談の内容に最も適したセンターや病院を紹介する。紹介して終わりではなく、紹介先と連携して最後までサポートする。
- ・家族の会立ち上げから、居場所づくりが必要と考える。「家族の会」＝悩みを口に出すだけで気持ちは軽くなり、明るい方向に進む第一歩。「居場所づくり」＝いきなり社会に出られなくても、ひきこもり本人たちの集う場所には出かけられるようになると思う。居場所には、ひきこもりを卒業した方達も集まってくると、彼らとの交流からひきこもり本人にも少しずつ変化が生まれてくると思う。
- ・「ひきこもり広場」というSNSを使った仮想空間を作って、ひきこもり同士で、どうしてひきこもりとなったか、また、ひきこもりを継続しているのかを認識することができるようにする。
- ・本人は自分の居場所がないのでひきこもってしまうのだと思う。一番は安心していつでもいれる居場所の確保だと思う。
- ・コロナ禍で職を失ってしまった方のひきこもりや、多様化する環境や教育に慣れることができずにひきこもってしまう子どもたちも増加していくと思われます。自分らしさを大切にできるような世の中、SDGsに基づき、誰一人取り残さないという強い気持ちを支援にあたる行政の方々が持たないといけないと思います。